

存療法から手術療法に変更した症例, ② 再発例と再発率, ③ 投与された抗生物質別の治療効果, ④ 入院期間ならびに入院費からみた手術施行例との比較. 【結果】① 79例中12例が手術療法に移行したが, 小児の穿孔例を経験した. ② 67例中再発症例は9例(13.4%)で全て男性であった(男性:9/42例, 女性:0/25, $p=0.0342$). 手術例は6例であったが, 12歳と77歳の2例が穿孔症例であった. ③ 投与された抗生物質は, ホスホマイシン±ミノマイシン, セフェム系が多かったが治療効果に差はなかった. ④ 入院期間は 6.58 ± 2.35 日, 入院費は $141,402 \pm 59,269$ 円で, 手術施行例の 12.8 ± 11.3 日, $361,269 \pm 153,286$ 円との間に差を認めた($p < 0.0001$). 【結論】保存的治療後の再発率は13%程度であり, 入院期間や入院費の面からみても保存的治療は妥当と考えられたが, 50歳以上や20歳未満の症例では穿孔し重篤化することがあり注意を要する.

31) Mesh plug hernioplasty の検討

長倉 成憲・石崎 悦郎 (済生会新潟第二)
相場 哲朗・川口 正樹 (病院外科)

長年鼠径ヘルニアの修復術は, Bassini 法を中心に行われてきた. しかしこれらの術式では, 縫合部にかかる緊張は避けられず, 術後の疼痛, 創部のつっぱり感を来す事になる. また文献によると, この緊張で縫合部の壊死が起り再発につながると考えられている.

当院では, 1995年より polypropylene mesh (Marlex mesh) を用いた tension-free hernioplasty (以下 Mesh 法) を施行している. 1993年以降成人鼠径ヘルニア手術を施行した患者にアンケート調査を行い, Bassini 法と Mesh 法について比較検討したので報告する. 入院日数, 術後の疼痛ならびにつっぱり感を自覚した日数ではいずれも Mesh 法の方が有意に短かった. 創感染, Mesh に対する拒絶反応, 再発を認めた例は現在までのところ無く, 本術式は成人鼠径ヘルニアに対し有用と考えられる.

32) 再発成人鼠径大腿ヘルニアの検討

早見 守仁・関矢 忠愛
斉藤 六温・吉田 正弘 (刈羽郡総合病院)
杉本不二雄 (外科)

近年, 成人鼠径, 大腿ヘルニアに対し, より再発の少ない術式について様々な検討がなされている. 当科でも

幾つかの術式を採用し, 再発の減少につとめてきたが, なおその消滅には至っていない. そこで, 今回, 自験, 再発鼠径大腿ヘルニア, につき再発予防の面から検討した. 当科で平成元年以降, 手術が行われた再発ヘルニアは外鼠径ヘルニア型9例, 内鼠径ヘルニア限局型5例, 内鼠径ヘルニアび漫型2例, 大腿ヘルニア型4例の計20例であった. Mizrachy 法後の再発は外鼠径型2例, 大腿型1例で内鼠径型は認めなかった. 再発までの期間は, 3年以内と5年以上とに区別され, その成因が異なることが示唆された. 外鼠径型再発は晩期に多く見られ, 大腿型再発は早期に多い傾向が見られた.

33) 当科で経験した Aggressive angiomyxoma の1例

清水 孝王・三科 武
鈴木 聡・飯沼 泰史 (鶴岡市立荘内病院)
斉藤 博・鈴木 伸男 (外科)

我々は, 骨盤内に発生した稀な腫瘍 Aggressive angiomyxoma (AAM) の1例を経験したので, 報告する. 症例は45歳の女性. 1994年1月頃より左外陰部の腫脹を認め, 近医にてバルトリン腺嚢腫の診断で開窓術を受けた. しかし腫脹は改善せず, 当院婦人科で精査の結果, 後腹膜腫瘍と診断され当科紹介となった. 1994年7月14日腫瘍摘出術を施行. 腫瘍はゼラチン様で骨盤腔左側に充満していた. 病理診断にて AAM と診断され follow-up となった. その後1995年2月のCTで骨盤腔内に再発がみられ, 同年7月31日経仙骨の腫瘍摘出術を施行した. AAM は骨盤内や会陰部に発生し, 血管増生・局所浸潤・再発性を特徴とする粘液腫様の極めて稀な腫瘍である.

34) 著明な低ナトリウム血症を呈した2例

佐藤 友威・草間 昭夫
角南 栄二・岡村 直孝
若桑 隆二・田島 健三 (長岡赤十字病院)
和田 寛治 (外科)
広田 雅行 (同 小児外科)

消化器癌の経過中に著明な血清電解質異常を来した2症例を経験したので報告する. 1例は直腸癌にて低位前方切除を施行, 術後縫合不全にて, ドレナージ手術を施行したところ, 著明な低 Na 血症と精神障害を呈した例である. 他の一例は幽門狭窄を伴った胃癌症例で, 入院精査中に著明な低 Na 血症を呈した例である. いず